
機械皇子

Noah

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

機械皇子

【Nコード】

N4496A

【作者名】

Noah

【あらすじ】

一人の少年の、不思議な悲しい夢の世界。

(前書き)

こんにちは、Noahです。この間とある批評サイトで小説の書き方を勉強してきました…。基本的なことだけでもしっかりして、面白さとともに読み易さも追及して行きたいです(*・v・)

僕の周りを取り囲む、生暖かい液体の感覚……

皮膚を撫でながら上昇していく細かな気泡がくすぐつたい……

ここはどこ……？

不思議な暖かい気分に含まれた中で、少年はその瞳を開いた。自分の周りを取り囲むのは透明な液体。液体自体は透明であるはずなのに何故か、碧い。その青に汚染されたのかそれとも元からなのか少年の瞳も濃い藍色だ。色素の薄い金髪はそこそこ長さがあり、怪しい触手の様に波に乗せて漂う。綺麗な顔立ち…年は、16才。

……16才……

この碧い世界はまるで海のように少年の瞳に映った。少年はその海の中に生まれたまま、白い肌を晒して浮かんでいた。己の足下を見れば、遙か遠くの底の方にピンクや紫の鮮やかな珊瑚が見える。体は浮遊していて……だけど呼吸はできる。

不思議だ……

不可解な世界。だけど……とても綺麗で愛おしい。このまま波に身を委ねて、また眠ってしまおうか……。だって、とても気持ちがいい。

？

そのとき、少年の藍色の瞳は光り輝く何かを己の前方にとらえた。目を凝らして見てみると……それは淡い桃色の、石。小さな小さな、かわいい宝石。何も無い碧の中で、寂しそうに浮かんでいる。

欲しい

彼は右手をのばした。目の前に浮かぶ桃色の宝石を掴むために。

届く。もう少しで……

！……！！

いきなり、何かが少年の足をちぎれんばかりに引つ張った。突然の痛みと、一瞬にして覚醒した恐怖。おそろおそろ、痛みの元を見据える。

長い……コード？

それは怪しくうねり、少年の足首にしっかりとその手を巻き付けている。

あまりに強く、あまりにキツく。

一本ではなく、何本もの無機質なコードの様なものが、少年の足を掴み……奥に、この世界の底へ連れて行くこととする。

……い……嫌だ

多大なる恐怖につき動かされ、少年はもがいた。だんだんとコー

ドは本数を増しながら……やがては、

足から胸へ

胸から胸へ

そして首へ

口へ

頭へ

長く長く伸びるコードは幾千本にもなり、少年の手足を、体を、拘束し、そして締め付け、引きずり込む。

とつさに目の前の宝石を見ると、……遙か遠くに。少年からはだんだんと離れて行く。

もう、手を伸ばしても届きはしない。

突然、胸が苦しくなった。呼吸する度にその肺には冷たい水が入り込み、量を増し、少年を苦しめる。

頭が

体が

痛い。

呼吸ができず、意識は薄れて行く中で、少年は輝く何かをとらえた。

あの宝石　？

もう伸ばせない、指先すらも動かせないその腕は、コードに巻かれて空しく虚しく空を切る。

暖かかったのに、
優しかったのに。

今は只の、ここは死の海。

やがて、その光は輝きを増し……そしてそこから、何千万というコードが少年に向かって飛び出してきた。

ああ　もう、終りなのか

コードの群れは勢いを落とすことなく、少年を飲み込んだ。痛みすらわからない。きつともう少年の体は、原形すら止めていない。

目の前は闇に支配され。思考回路は停止して……もう悲しみ以外見出だせない。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4496a/>

機械皇子

2010年10月21日13時39分発行